

## 会 議 議 事 録

1 会議名	令和3年度 第1回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	令和3年7月19日（月曜日） 午後3時から午後4時30分まで
3 開催場所	長岡市立劇場 3階 大会議室
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>兒玉優子委員長、山川千恵子副委員長、八木義克委員、 小海信幸委員、高津亮委員、鷺尾奈津樹委員、宮下あさみ委員、 加藤仁委員、久保田規子委員、渡辺美子委員、広川佳予子委員、 成田涼委員、田邊香織委員、高橋美幸委員、横澤勝之委員、 大川俊泰委員、荒木隆幸委員、村田由紀委員</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>小池由佳教授（新潟県立大学）</p> <p>(事務局)</p> <p>子ども未来部：水島部長 学校教育課：中山課長 子ども・子育て課：田中課長、佐藤課長補佐、五十嵐課長補佐、 長谷川係長、大隅係長、小林主査、 金子子どもナビゲーター、平沢子どもナビゲーター 保育課：恩田課長</p>
5 欠席者名	若槻司委員、榎園早苗委員
6 議題	(1) 令和3年度長岡市子ども・子育て会議について (2) 令和2年度の子育て支援施策の実施状況について (3) 令和3年度の子育て支援施策について
7 その他	アドバイザーからのまとめ

<p>8 会議結果の概要</p>	<p>議事 (1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が資料No.1、2-1、2-2、2-3に基づき説明した。</li> <li>・質問・意見等は下記のとおり</li> </ul> <p>議事 (2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が資料No.3、4、4-1に基づき説明した。</li> <li>・質問・意見等は下記のとおり</li> </ul> <p>議事 (3) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が資料No.5、6に基づき説明した。</li> <li>・質問・意見等は下記のとおり</li> </ul> <p>その他については下記内容のとおり</p>
<p>9 会議内容</p>	
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ (事務局)</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 令和3年度長岡市子ども・子育て会議について (事務局)</p> <p>下記資料に基づき、事務局が説明</p> <p>資料No.1「令和3年度長岡市子ども・子育て会議について」</p> <p>資料No.2-1「児童館・児童クラブの在り方の検討について」</p> <p>資料No.2-2「令和3年度児童館・児童クラブ・放課後子ども教室一覧」</p> <p>資料No.2-3「長岡市の放課後児童クラブ及び児童館の現状と課題」</p> <p>(委員)</p> <p>今のご説明をお聞きして、現状や課題についてその通りだと思っています。とても荷の重い役で、課題がたくさんあるワーキング部会ですが、役割を果たしたいと思います。</p> <p>(委員)</p> <p>シルバー人材センターから延長時間帯のみ34人派遣されていると資料にありますが、全部のところに派遣されていますか。</p> <p>(事務局)</p> <p>延長時間帯に人手が足りず、要望があった全児童クラブに、シルバー人材センターから職員を派遣していただき対応している状況です。</p> <p>(委員)</p> <p>全部の児童クラブが常時延長が必要なのかということ、やはり利用者が多いところと少ないところでは傾向が違うのではないかと思いますので、その数字的なところはまたワーキング部会でお話させていただければと思いますが、必要なところでは全て使えるということによろしいでしょうか。</p> <p>(事務局)</p>	

そのとおりです。どのくらいの利用数になった時に派遣するのか、また、クラブによっては十分代行さん等がいて、シルバー人材センターに頼らなくても対応できている場合もあり、その他気になるお子さんがいる場合は加配で対応してもらおうなど、いろいろなケースがあるため、総合的に考えてどういったやり方がいいのか、ワーキング部会で一緒に研究させていただければと思います。

(2) 令和2年度の子育て支援施策の実施状況について

(事務局)

下記資料に基づき事務局が説明

資料No.3「令和2年度子育て支援事業実施状況」

資料No.4「第2期長岡市子育て・育ち”あい”プラン 第4章基本目標別の施策一覧」

資料No.4-1「資料4に関する質問に対する回答」

(委員)

産後ケア訪問、産前産後よりそい訪問について、昨年度は77件、145件と結構件数が多いです。令和6年度の目標が半分ぐらいに減っています。それは出生数低下を見込んで減らしていくということでしょうか。出生数は減っていますがケアが必要な方は増えていると思うので、この減った分をどこで補っていかうと考えているか教えてください。

(事務局)

ここ数年、産後ケアの需要がかなり増えてきており、実人数も、1人当たりの延利用日数も増えている状況にあります。これについてのコロナとの因果関係は、まだまだ私どもではわかりかねるところですが、この2年ぐらいではやはり増えてます。

昨年度は、里帰り困難な方への支援として補正予算を組んで支援を実施しており、そういった中で、コロナなど時世の変化もあると思っています。令和6年度の目標値というのは、令和元年度に第2期”あい”プランをつくった際に設定した数値であり、計画の半期で見直すことも必要だと思っています。この目標値を以て事業を縮小することはないですし、それに応じた必要な予算は毎年確保していきたいと考えております。

(委員)

いくつかの施策の中で、実績を「実施」としているものがありますが、果たしてこれは本当に「実施」だけで評価をしているものかというものが幾つかありました。例えば研修会について、参加人数で評価している研修会もあれば、実施をしましたという評価をしている研修会もあるので、そこは統一を図ったほうがいいのかということと、

「ウィルながおかの運営の実施ができた」というところは、他は回数などで評価しているのに対して、運営ができましたというだけで評価しているのかと疑問に思いました。

結局この実施については、実施をしたことによってどんな効果が出ているのかという部分で評価をしていくべきかなと思うので、その評価のための実績とか、評価項目をもう少し具体的にさせていただいた方がいいのではないかと思います。

(事務局)

子育て施策の実施について、効果を数字的にとらえるのはなかなか難しい面もあります。そういった中で事業自体を、組織として具体的にサービスを提供できたという部分で、引き続き「実施」とさせてもらっている指標もごございます。特にイベント等についてはなかなか参加者数だけで推しはかれない部分もあり、特に子育ての駅でやっているようなセミナー等については、参加者は少数ですが有意義なイベントもありますし、悩んでる方については、参加の機会の創出という意味で、その開催自体に意義があるものもごございます。ただ、そのような中でもご指摘いただいた通り、評価の「見える化」という部分でまだまだ不足しているところは否めませんので、こういったものがわかりやすくなるのか、引き続き研究して参りたいと思います。

### (3) 長岡市の子育て支援施策について

(事務局)

下記資料に基づき、事務局が説明

資料No.5「長岡版コミュニティ・スクール」

資料No.6「令和3年度子育て支援施策について」

(委員)

長岡版コミュニティ・スクールの、地域と教育機関が、子どもたちに対していろいろな面で力添えしていくということはとても良いことだと思います。ただ、いただいた資料の中で、単なる表現なのかもしれませんが、例えば資料5の最初のページの「長岡を愛する子どもを育てる」という表現や、3ページ目の「学校の方針、育てたい子どもの姿を共有」、次のページで「長岡でどのような子どもたちを育てるのか」、一番最後には「オール長岡の体制により、社会総ぐるみでふるさと長岡を愛する子どもを育てていきましょう」という表現をされています。

この中で私が感じたのは、私たち子ども・子育て会議の中では、子どもをまず中心におくという考え方なので、子どもたちをよりよく育てていこうということは感じられますが、子どもの意見を聞いて子どもを尊重することなく、子どもたち自身に影響が及ぶような事柄を大人だけで決めるようなところは受け入れられないと感じました。

この文章だけのこともかもしれませんがそう感じましたので、その辺どうお考えなのかお聞きしたいと思います。

この間、町内の回覧板の中で、東中学校の学校通信がありましたが、その中で「東中の未来を語る会」を6月に開催されたとのことで、誰が話しあったかというところ、地域の方が6名、PTAの役員の方が5名、学校の応援をしたいという会の代表の方が1名、東中の卒業生が5人、それから東中生が6人入って意見交換をされていました。内容は、身につけて欲しいその子どもたちの資質、地域のために今すべきことは何かという二つを検討したそうです。このように、子どもたちも含めてコミュニティ・スクールができたらいいなと思いました。

(委員)

これまで「熱中！感動！夢づくり教育」として小国中学校や寺泊小学校の取り組み、コミュニティや地域の方を巻き込んだ学校運営、教育活動をされてこられたわけですが、それと長岡版コミュニティ・スクールの違いがイメージできていないので、私たちコミュニティ、地域は、学校等とどのように関わっていくことがこの長岡版コミュニティ・スクールなのか、イメージしやすいようなモデル事業を示していただけたらありがたいと思いました。

先ほどの「東中の未来を語る会」に参加させてもらいましたが、東中はこのパイロット事業には関わっていないようですので、私たちがその会議に出ることで、コミュニティ・スクールの一員になっているのか御教示いただければと思います。

(事務局)

コミュニティ・スクールという考え方は、学校と地域の中で、資料にある「多様性」という中の「学校運営協議会の設置パターンや委員の構成等を学校、地域の実情に応じ、柔軟に対応」という形で、学校運営協議会という協議する場を15人以内の委員で組織しており、この協議会として組織したものをコミュニティ・スクールと捉えております。

「熱中！感動！夢づくり教育」の中で取り組んできた事業についても、基本的にはこれまでも学校と協議した中でいろいろな取り組みを進めてきておりますが、どちらかという学校との教育活動に、地域からの協力を願うというような形で行ってきたものが多かったのですが、これからはやはり地域側の行事として、例えば児童・生徒の通学の見守りを、地域の高齢者の方の見守りをつなげるなど展開していくことや、学校で行っていた運動会のような行事も、地域で同じような行事があれば、お互い時期とか内容も調整して一緒にやっていくとか、そういった地域側の意向、地域としての取り組みについても学校側の活動を取り込んで、お互いにとっていい形で取り組んでいくことができれば、子どもたちも学校内外において、より様々な経験ができるのではないかと、長岡版コミュニティ・スクールの一つの大きな取り組みになっていくと思います。

今年度からこの運営協議会を組織するパイロット校を6校で実施していきたいと思っており、この取り組みを私どもの方で検証させていただき、良い面とまた課題も出てくると思いますので、それを踏まえて令和4年度以降全市的に展開していけるように考えているところです。運営協議会を今回しっかりと形づくらなくても、来年度以降これに向けて、例えば東中で今ご紹介いただいたような環境づくりについて少しずつ進めていくという形もあると思っておりますので、東中学校の動きも、この運営協議会の本格設置に向けた検討段階になりうるものと思っております。

最後に、この「育てる」という言葉の部分ですが、これは「熱中！感動！夢づくり教育」の中でもあった、重点的に育みたい、身につけさせたいというような方針的な言葉から、地域に説明していく際にこのような表記をさせていただいていますが、この趣旨については委員長から言われた通り、あくまでも子どもたちの成長を地域と一体となって推進していくという考え方で進めているものであり、地域とともにある学校の実現を目指して、どのような形でコミュニティ・スクールを進めていくかという趣旨です。

子どもたちが多様性を育むために、地域の様々な人材に関わっていただいた中で学びの機会を充実していきたいと思っており、あくまで子どもたちはそれを通して主体的に物事を判断したり、学校以外の様々な地域の人とも協働しながら関わっていく力を身につけていきたいという趣旨です。

(委員)

フリースクール「あうるの森」の子どもたちが、「不登校宣言」という本を出版し、その発表会が2月にありましたが、子どもたちが自分たちで考えていく、長岡を愛しているということが子ども達の発表からも伝わってきたので、ぜひそういった子どもたちと一緒に作る、地域を巻き込むようなことができるといいと思います。

そういったコンセンサスを地域の中でやることは大事であり、そのためにはコーディネーターする人が重要だと思いますが、ディレクター設置校が3校とあります。教員の皆さんは多忙であり、学校の先生方の業務がさらに増えるのは厳しいのではないかと思いますので、このディレクターの配置の役割を聞かせていただければと思います。

もう一つ、私はフードバンクの方も関わらせていただいているので、今回DVDを上映していただきましてありがとうございました。明日からまた「子ども笑顔プロジェクト」の配布する食料等の袋詰めなどもあり、多くのボランティアから参加をいただき袋詰めしたり、配達をしたりします。150世帯ぐらいを対象に毎月活動していますので、皆さんからもご支援いただければと思いますのでよろしく願います。今回上映いただいたDVDは、YouTubeでも公開していますので、ぜひ皆さんご活用いただければと思います。

もう一つ、この子ども・子育て会議の公募委員のOBの皆さんから作られている、「&MAMAつながり」というサークルの皆さんも、ひとり親世帯を支援するための動画を最近作られ、YouTubeで公開されていますので、そちらの方もご覧いただければと思います。

(委員)

新町小は北中と一小一中のような関係にありますので、北中がパイロット校ということで今年度進めていて、新町小もそこに重なるようにのっているというところなんです。実際には、新町小の一部の子どもは東中に行く訳ですが、多くの子どもが北中に行くという関係で、中学校区単位、北中と新町小で一つのコミュニティ・スクールを作っているというところなんです。

6月9日に第1回の学校運営協議会が開催され、北中には北中への思いの強い後援会の人や学校評議員の方がいて、そして新町小にも新町小の後援会の人や学校評議員の方がいて、それぞれの思いは強い訳ですが、ほぼ重なっている中学校区ということですから、それで緩やかに統合して運営協議会を開いております。

その中で、まず学校の様子を地域が知ることがとても大事だという話が出ており、ホームページやお便りを使って学校の様子をとにかく地域に知らせていこうと、広報の活動をしていく必要があるという話が出ました。

また、子どもと地域が良好な関係を築くという点で、何よりもまず挨拶が大事だろう、そして、見守ってくれる地域の方、そこにしっかりと挨拶をし、お礼の言葉が言える、そ

ういう中にもお互いにいい関係が生まれるのではないかという話が出ました。

また、両校とも「子どもを幸せにする学校」ということをキャッチフレーズにしており、子どもにとっての幸せは何かということから、ぜひ子どももその会議に参加して意見を聞きたいという話がありましたので、そのように今後は進めていくのではないかと考えております。

この北中学校区の、CS（コミュニティ・スクール）ディレクターは、先ほどDVDにも出ておりました、佐竹直子さんから引き受けていただいております。この佐竹さんのCSディレクターの役割としては、協議会の中で出た話題等をお便りにして、地域みんなで子どもたちを見ていこうということで早速6月末に発行しております。

また、佐竹さんは皆さんご存知の通りですが、大変忙しいいろいろな組織をつくられている方ですが、そのことについて佐竹さんに聞きますと、私がいなくてもできるシステムを作るのが大事なんですという話をされておりました。「新町みんな食堂」や新たに「蔵王の城プレーパーク」を作ったりしましたが、自分がいなくてもできるシステムを作る、これはコミュニティ・スクールも同様だと思います。

職員は異動で変わりますが、変わっても残るコミュニティ・スクールというシステムを作るということが大事なのではないかと考えています。まだ立ち上がったばかりのコミュニティ・スクールですが、必ずや子どもを中心に学校と地域が手を携えていけるものと考えながら進めていきたいと考えております。

#### 4. その他

(アドバイザーから)

4点、お伝えしたいと思います。

最後の議題で話が出ていましたが、1点目は、最初に委員長がおっしゃったように、「子どもファースト」をどのように実現していくかということだと思います。今までやってきたいろいろな事業をもう1回子どもの観点から見たときに、今までやってきたことがこのままでいいのかということ、少しずついろいろな分野もフィールドも越えて動いていることかと思えます。新町小の取り組み等も含めて、子どもを幸せにする学校だという、子どもに軸足を置いた考え方が出てきているのは良いことだと思います。まだまだ大人の思いで動いているところはあるのではないかと私自身も含めて正直思いますので、これを少しずつ、どのように変えていくかということが1点目です。

2点目は、昨年度の「子育て・育ち“あい”プラン」の中に盛り込まれた事業の評価について、主に実施できなかったものについては交流系のもが多かったということなので、今年度も含めて今後どのように展開していくかということが課題だと思います。交流するような事業がなくてよければ計画には盛り込んでいないですし、本来であればやるべきものが新型コロナウイルス禍でできなかったということは、それをどこでどう補っていくのか、どういう方法であれば可能なのかということ、やはり検討していくべきであると思えます。

3点目は、委員のおっしゃった事業評価のところ、行政計画では本当に限界のところも一つありますが、評価のところに出てくるものがアウトプットであり、事業をそのまま計画通りにできたかどうかというところが多く、本来もう一つの軸として見ていかなければならないのがアウトカムという、要するに、やったことでどのような変化が生じたのかということです。ただこれは、一つの事業をやったことで大きな変化が生じるというよりは、長岡市で取り組まれてるたくさんの様々な事業が重なっていくことで、この計画策定のときの理念として挙げた「育つ喜び 育てる幸せ みんなで子育てするまち 長岡」ということが実現できているかどうか、そちらの方向に動いているかどうかということを見ていく必要があると思っています。ですので、一事業ずつ評価するのは難しい部分があるかもしれません。一方で、やはり計画を立てたものが計画通りにできているかどうかというのも確認はしなければならないので、そこも含めてご理解いただければと思います。

4点目は、新しい今年度のワーキング部会として、学童期の子どもたち、特に児童館の課題が大きくなってきているところであり、時期にあったいいワーキング部会を立ち上げられるんだなと思いました。コミュニティ・スクールもそうですが、連携というのはやはりキーワードになってくると思います。学校側が地域を、上下関係ではなくパートナーという対等な関係で子どもたちと一緒に育てていく意識をお互いに持つていくことができるかということが一つキーワードになってくるかなと思います。私も「連携」という言葉をいろいろなところで聞きますが、パートナーとなっていくことができるかどうかという観点から取り組んでいただけるといいと思います。

5. あいさつ  
(事務局)

(出席委員の署名欄)

上記会議議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名をする。

長岡市子ども・子育て会議 委員長

⑨

9. 会議資料 別添のとおり